

神経研究所 (NIN)

認知症モデル動物の作出に挑戦中!

モデル動物開発研究部
部長 関和彦

National Institute of Neuroscience

モデル動物開発研究部では、随意運動の発現機構や運動に関わる感覚情報の処理機構について、主に霊長類を対象とした実験的手法を用いて研究を進めています。霊長類の巧みな手や上肢の運動が、大脳皮質や延髄や脊髄によってどのようにコントロールされているのか、サルをモデル動物として用い、電気生理学や光遺伝学、計算論的神経科学などの手法を適応してその解明を目指しています。また、研究室では、これと並行して、ヒトの精神・神経疾患のモデル霊長類を作出し、病態理解と新規治療リハビリ法開発を目指しています。これまでに、脊髄小脳変性症モデルサル(遺伝子改変)、脳卒中モデルサル(皮質・内包梗

塞)の開発に成功しており、現在は、認知症(アルツハイマー)モデルサルの作出に挑戦中です。これらの動物を用いて研究を行ってみたい先生方はぜひお声かけください!



研究部ホームページで、活動の様子などをお知らせしています。
https://www.ncnp.go.jp/nin/guide/r_model/index.html

トランスレーショナルな視点による新しい評価・治療法を創出

児童・予防精神医学研究部
部長 住吉太幹

精神保健研究所 (NIMH)

児童・予防精神医学研究部では精神疾患の早期介入と予防、および児童・青年期を含むメンタルヘルスに関する調査研究・情報発信を行っています。特に、各種の精神疾患に見られる認知機能の精緻な評価、および薬物や低侵襲脳刺激による改善法の開発を目指しています。これらの活動の多くは、NCNPの他部署や海外の研究機関との協働によります。

部や脳神経外科診療部との学会での合同発信など、領域横断的な取り組みにも力を入れています。

臨床研究中核病院取得の要件である特定臨床研究を複数走らせ、研究成果の発信促進のための英語論文セミナーをCREPと共催するなど、NCNPのミッションに沿った重層的な活動を展開していく予定です。

病院との協働としては、住吉がセンター長を務める気分障害センターと、統合失調症早期診断・治療センターやニューロモデュレーション(NM)センターなどとの“専門疾病センター横断的”な連携が挙げられます。また、NMを切り口とした、身体リハビリテーション



共同研究施設のスタッフに経頭蓋直流刺激の施行法を指導

National Institute of Mental Health

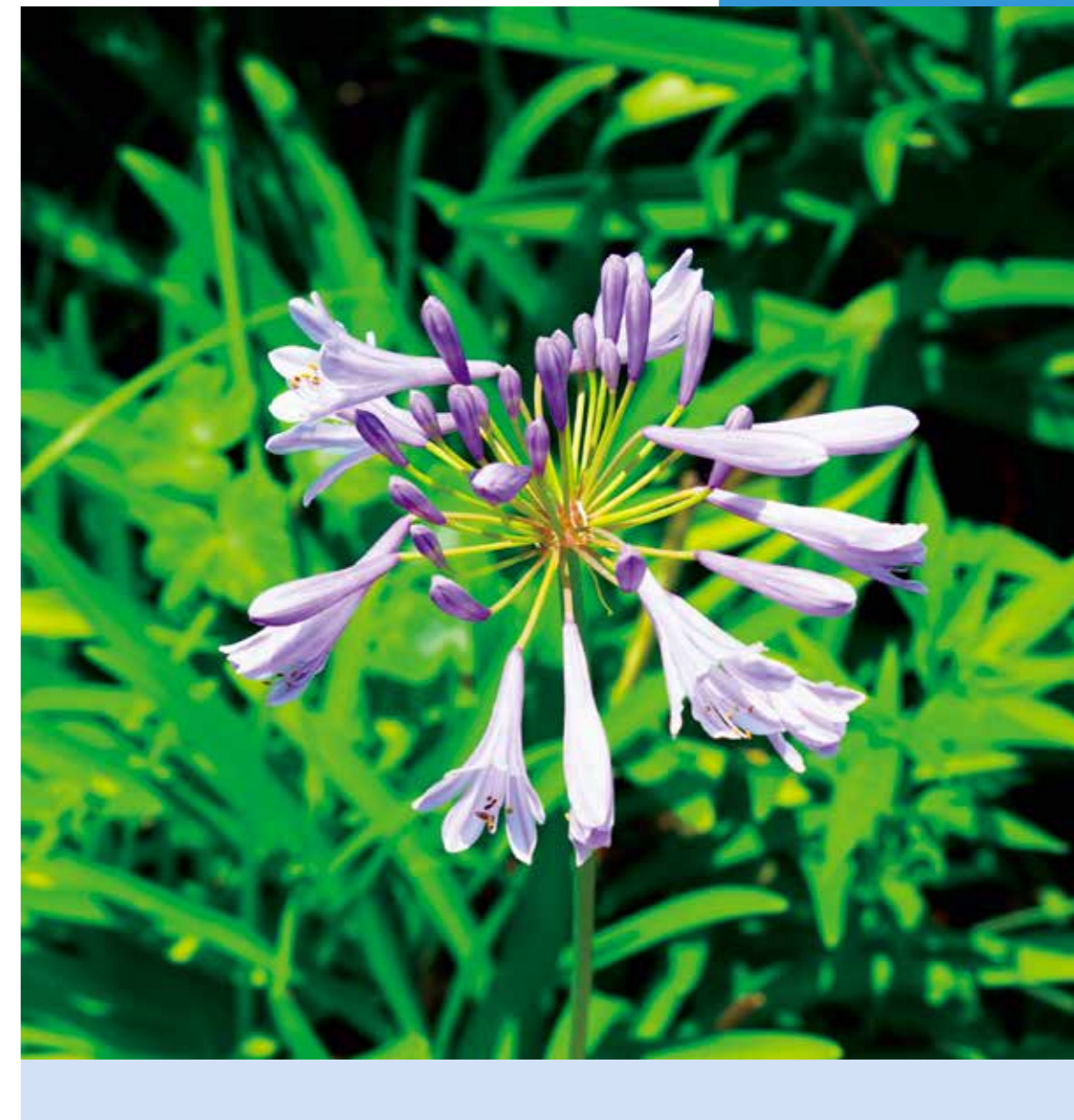
<https://www.ncnp.go.jp/>

NCNP 診療ニュース

T O P I C S

精神保健研究所70周年記念事業 『こころの情報サイト』開設について

2023.7
Vol.35



診療科紹介

脳神経小児科
診療部

各部門紹介

栄養管理室
薬剤部

専門疾病センター紹介

嚥下障害
リサーチセンター
ニューロモデュレーションセンター

活動紹介

神経研究所
精神保健研究所

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP診療ニュース Vol.35 2023年7月発行
国立精神・神経医療研究センター病院 発行責任者: 病院長 阿部康二
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
Tel.042-341-2711(代表) <https://www.ncnp.go.jp/>

精神保健研究所70周年記念事業 『こころの情報サイト』開設について



精神保健研究所 所長
金 吉晴

コロナ禍の3年あまりを経て、社会にはこれまでとは違った形で精神的な閉塞感があり、こころのケアへの関心が高まっています。精神保健研究所では設立70周年を記念する事業として、そうした関心に応えるための『こころの情報サイトを開設』しました。



こころの情報サイト

<https://kokoro.ncnp.go.jp/>

このサイトの特徴は、ストレス、精神疾患、治療、福祉などの支援制度に向けて、順序立てて解説をしていることです。単に疾患の知識を与えるのではなく、疾患以前のストレスレベルでの対応についての情報を提供し、通常のストレスと精神疾患の境目についての考え方を分かりやすく呈示しています。次に、ある程度の症状を持っている方について、各精神疾患の説明を行うだけでなく、その後どのような治療、支援を受けられるのかの見通しを提供し、ご自身で必要な支援のために動くことができるように工夫をしています。

現代社会では誰でもストレスを感じることがあります。個人で対応が可能な場合もあれば、精神疾患の診断がつくこともありますし、適切な治療を受けて回復したり、社会生活上の支援を必要とすることもあります。ときには入院が必要となったり、慢性的な症状とうまく付き合いながら社会適応を目指す方もおられます。そうした流れに沿って、こころの不調を感じる方々が各段階での自分の状態を理解し自身で対処したり、必要な支援を求められるようになることを目的としてこのサイトを作成しました。

精神疾患は単独で存在しているのではなく、それ以前のストレスを抱えた生活や、その後の、症状などを抱えた社会生活の流れの中に位置しています。常に生活の実態に即したメンタルヘルスの情報を提供できるように、今後も改良を続けていきたいと思っています。



『こころの情報サイト』よりPDF版をダウンロードできます。



脳神経小児科診療部



高度な医療を優しく提供： 神経発達に関する疾患全般を担います

脳神経小児科は、2023年5月現在常勤医師8名、レジデント医師10名にて診療を行っています。小児神経専門医、もしくはそれを目指している医師がこれだけの数に籍している病院は国内にはなく、これまで100名を超える小児神経専門医を育成してきました。

私たちは主に小児の神経発達に関わる疾患を担当します。中枢神経疾患(脳と脊髄の病気)、末梢神経疾患、筋疾患全般を担当します。近年増加傾向にある発達障害(自閉スペクトラム症、注意欠陥多動症)にも対応します。けいれん発作が疑われる、乳幼児で知的・運動発達が遅れている、体が柔らかい、手足がふらつく手足が勝手に動くなどの運動発達に関する問題や、言葉の発達が遅れている、会話が成立しない、落ち着きがないなど知的発達や行動面での心配事があるお子さんがおられる場合には是非ご紹介ください。

我々の施設にはこれまで全国の病院から紹介を受けていたこともあって地域の先生にとっては少々敷居の高い病院と認識されていたかもしれません。小児神経専門医による丁寧な評価、治療を提供させていただいたうえで地域の先生や療育施設との連携体制を構築させていただきますので、乳幼児健診でちょっと発達が気になる患者さんも含めてお気軽に紹介いただければと思っています。

当院には脳波、CTなどの一般的な検査に加えて、複数の撮影方法を駆使した脳MRI検査、長時間脳波、脳誘発電位、SPECT、PET、MEG、神経伝導検査、筋電図、筋生検、末梢神経生検などの特殊検査を必要に応じ提供いたします。高度な医療を優しく提供することをモットーに診療を行っています。



脳神経小児科診療部長
小牧 宏文

小児のけいれんも多くみられる症状ですが、我々はけいれん性疾患の診断と治療にも精通しています。必要に応じて最新の知見に沿って薬物治療を行います。稀には薬物治療への反応が悪い場合もありますが、その場合には脳神経外科と連携し手術療法も検討します。国内では少ない乳幼児のてんかん外科を多く手がけている施設です。筋ジストロフィーや脊髄性筋萎縮症などの神経筋疾患の診療では国内をリードする立場で、数多くの患者さんに対して先駆的な治療を提供しています。2020年には製薬企業と連携してデュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する新薬を世に送り出しました。

一方で重度の障害を有する重症障害児(者)や筋疾患を有する患者さんに対するケアにも力を入れています。短期入所や長期入院病棟も運営しています。さらに小児科から成人診療科への移行期医療にも積極的に取り組んでいます。皆さまからのご紹介をお待ちしています。



栄養管理室

NCNP病院
各部門
紹介

栄養管理室長 宮本 佳世子

**アフターコロナ、少人数ですが
心機一転で再稼働です!**

当院の栄養管理室に所属する管理栄養士は6名です。コロナ禍では図らずも給食管理業務に徹することとなりましたが、これを機に衛生管理と医療安全管理、食事管理についての見直しを行う機会に活用し、マニュアルの作成や課題改善を実施して参りました。

栄養管理室は管理栄養士以外に複数の職種や、所属が異なる職員で構成されているため意思の疎通が難しい場合もありますが、今回のような機会を通じ、改めて相互の意思疎通や学びの場に活用出来たと思っています。入院患者さんにとって病院のお食事は、入院中に立案された栄養管理計画や栄養食事指導内容の「具体的な媒体」です。食事の安定に繋がる今回の取り組みにより、管理栄養士はより安心して休止していた臨床栄養管理に臨むことが出来ました。

今後も管理栄養士は病棟や外来での臨床栄養管理と入院患者さんの給食管理を両輪に業務を行い、研究調査も行いながら栄養管理が治療に貢献出来るよう業務に望みたいと思います。



栄養管理室スタッフ

薬剤部

薬剤部長 勝海 学

**より専門性の高い薬物療法支援を
目指して**

薬剤部は、医薬品の供給部門であると同時に、病棟薬剤師を中心として薬物療法に関する知識と臨床経験を活かし、患者さんに最適な薬物療法や副作用の予測・解決方法を提案し、治療を支援することが主な業務となります。この病棟薬剤業務機能をさらに強化し、地域薬剤師とも連携することで入院から退院、外来におけるまでシームレスな薬物療法支援を行うことで、より安心・安全な医療提供を目指します。

現在、精神疾患の薬物療法に関して、より高度な知識や技術を身につけ、薬物療法を有効かつ安全に行うことのできる認定資格(精神科薬物療法認定薬剤師等)の取得を目指す人材育成も進めており、専門性の高い人材の育成、学会発表や論文投稿など情報発信への取り組みを推進していきます。



嚥下障害リサーチセンター

誤嚥性肺炎の発症予防に取り組んでいます

病院脳神経内科医長
嚥下障害リサーチセンター長 山本 敏之



「肺炎は老人の友である」は、ジョーンズホプキンス大学の教授であったウィリアム オスラー(1849~1919)が残した言葉です。その意味は、どんな疾患を

患っていても、最後は肺炎を発症し、安らかな死を迎える、ということです。しかし、医学が進歩し、人生の晩年の「友」として、肺炎を受け入れる時代ではなくなりました。抗菌薬で治療できる肺炎、原疾患の治療で予防できる肺炎、嚥下障害への対処で予防できる肺炎などがあるとわかってきています。

嚥下障害リサーチセンターは、精神科疾患や脳神

経内科疾患の嚥下障害の克服を目的に2017年に設立されました。嚥下障害によって引き起こされる肺炎や栄養失調などの問題を解決するため、診療と研究に励んでいます。



Webを利用した
多施設共同カンファレンスの様子

専門疾病センター

NCNP病院には現在12の専門疾病センターがあります。
診療科や専門分野を超えたチームにより高度専門的医療を行います。

精神診療部長
ニューロモデュレーションセンター長
鬼頭 伸輔

ニューロモデュレーションセンター

症状を緩和させる治療法の開発

ニューロモデュレーションセンターでは、組織横断的な取り組みとして、精神科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、身体リハビリテーション科が参画

内唯一のセンターとして、新規治療法や医療機器の開発、診療に資するエビデンスの構築を目指しています。標準治療が奏効しない患者さんに対しても、診療、研究を通して、何かしらお役に立てるようメンバーとともに鋭意努めて参ります。

するほか、精神保健研究所、神経研究所、IBIC、CBTセンターとも連携し、基礎・臨床研究を推進しています。対象となる疾患も、うつ病、双極性障害、統合失調症、強迫性障害、パーキンソン病、トゥレット症候群、てんかん、難治性疼痛、脳卒中、ジストニアなど、非常に多岐にわたります。NCNPの特色をいかしつつ、さまざまなニューロモデュレーションに対応できる国

ニューロモデュレーションセンター
Neuromodulation Therapy and Research Center (NMC)

What is the meaning of neuromodulation?
電気・磁気・薬物によって神経機能を修飾し、症状を緩和させる。精神神経科領域では、特に電気・磁気によるモダリティをいう。

Neuromodulation Center
NCNPは、研究所、病院、IBIC、CBTセンターを創設し、基礎研究から、精神疾患、神経疾患、脳疾患、発達障害を対象とした臨床研究までシームレスに取り組みを行う国内唯一の施設である。国内初のNMセンターとして、新規治療法や医療機器の開発、診療に資するエビデンスを構築する。

NMセンターでは、組織横断的な取り組みを通じ、高度・専門医療を提供する。基礎・臨床研究を推進させるほか、この領域をリードする人材育成を目指す。

広義には、プリズム通店、ブレインマシンインターフェイスを含む

- 脳深部刺激 (DBS)
- 迷走神経刺激 (VNS)
- 非侵襲的脳刺激
- 反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS)
- 深部経頭蓋磁気刺激 (dTMS)
- 経頭蓋直流刺激 (tDCS)
- 経頭蓋交流刺激 (tACS)
- けいれん療法
- 電気けいれん療法 (ECT)
- 磁気けいれん療法 (MST)

発達障害研究の研究協力者を募集しています

精神保健研究所
知的・発達障害研究部 部長 岡田 俊

精神保健研究所知的・発達障害研究部では、発達障害の臨床特性に関連した脳の働きや脳の構造・機能との関連を調べる研究に協力して下さる発達障害(自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症(ADHD))の方と発達障害のない定型発達者の方を募集しています。満6～55歳で知的障害のない方を募集しています。

自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症、あるいは、併存する精神症状についてアンケートに答えていただくほか、知能検査、パソコンの画面をみてその課題に応じてボタンを押して回答していただく課題を行っていただく課題で、およそ半日間にあります。また、さらにご参加をいた

ける方には別日にMRIの研究にもご参加いただけます。

発達障害といっても、その特性のパターンは様々です。私たちは、発達障害の特性に関連した脳の機能や構造を把握するとともに、併存する精神疾患との関係を明らかにしていきたいと考えています。詳細につきましては、知的・発達障害研究部のHPにございます連絡先までお願いいたします。



親子相互交流療法(PCIT)研究に参加いただける親子を募集しています

精神保健研究所
知的・発達障害研究部 部長 岡田 俊

精神保健研究所知的・発達障害研究部では、親子相互交流療法(PCIT)研究を実施しており、子どもに情緒面や行動面で難しさがあるなど、養育者の方が関わり方や育児に悩んでいる、2～7歳のお子さんとその養育者の方を募集しています。

PCITは、子どもの行動上の問題の改善や親の養育スキルの向上に効果がみられる心理療法です。その一方で、どのような親子では治療を継続しやすく、効果も得られやすいのか、逆に困難なのかは十分にわかっていません。また、我が国では、PCIT実施施設も少なく、一般的に利用できる治療になっていません。私たちは、PCITの

実施に、親子の詳細な評価を加え、治療の継続や効果に影響を与える要因について明らかにしたいと考えています。研究にご興味をお持ちいただけそうな親子様がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。詳細につきましては、知的・発達障害研究部のHPの連絡先までお願いいたします。



ご存じですか? NCNP 及び NCNP 病院 公式アカウント



https://twitter.com/NCNP_PR



<https://www.youtube.com/user/NCNPchannel>



<https://www.instagram.com/ncnp.pr/> NCNP公式

https://www.instagram.com/ncnp_hospital/ 院長室



NCNP公式



院長室

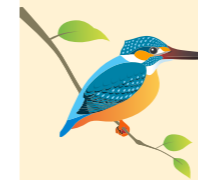
ぜひ、フォロー・チャンネル登録をお願いします!!



NCNPプレスリリース (<https://www.ncnp.go.jp/topics/>)

- デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬(NS-089/NCNP-02)の米国での第II相試験治験計画合意に関するお知らせ
- 「摂食障害相談ほっとライン」の情報がYouTubeの「精神的危機に関する情報パネル」に表示されるようになりました
- 精神科医療機関における、新型コロナウイルス感染症予防のオンライントレーニングで、予防知識向上に飛躍的な効果

Nature



NCNP四季便り

情報システム顧問 永井 秀明

アオツツラフジ(青葛藤)

つる性の植物で、他の木や草につるを絡ませて成長します。

センターでは低い植え込みに絡んで生えています。

丈夫なつるは、かつて近縁のツツラフジとともに“つづら”の材料に使われていたのがこの名前がつけました。

「おむすびころりん」でおじいさんがねずみにもらった、あの“つづら”です。

夏に熟す実はブドウのようで美味しそうですが、有毒で食べられません。

でもヒヨドリは食べても平気だそうです。

ヒヨドリに種を運んでもらう作戦ですね。

